

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(V2.1)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	ジャコハ木工場 完成出荷場増床	階数	地上1F	外観バース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください
建設地	京都府南丹市八木町室横山田10-1	構造	S造	
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	50人	
地域区分	5地域	年間使用時間	2,920時間/年(想定値)	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	201年 月 日	
敷地面積	200,792 m ²	作成者	松本 政昭	
建築面積	2,458 m ²	確認日	201年 月 日	
延床面積	2,458 m ²	確認者	松本 政昭	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.0 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%: ★★★★★</p> <p>標準計算</p> <p>① 参照値 100%</p> <p>② 建築物の取組み 63%</p> <p>③ 上記②以外のオンサイト手法 61%</p> <p>④ 上記③ オフサイト手法 61%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能: 5</p> <p>Q3 室外環境(敷地内): 4</p> <p>LR1 エネルギー: 4.2</p> <p>LR2 資源・マテリアル: 2.5</p> <p>LR3 敷地外環境: 3.3</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Qのスコア = 2.6		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.4</p> <p>音環境 照度環境 光・視環境 空気質環境</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.8</p> <p>機能性 耐用性・信頼性 対応性・更新性</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.5</p> <p>生物環境 まちなみ・景観 地域性・アメニティ</p>
LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.2</p> <p>建物外皮の熱負荷 自然エネルギー 設備システム効率化 効率的運用</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.5</p> <p>水資源確保 非再生材料の使用削減 汚染物質回収</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3</p> <p>地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮</p>

3 設計上の配慮事項		
総合 当施設の事業性及びお施主様の要望を踏まえ、合理性に、配慮した施設計画としている。		その他 特になし。
Q1 室内環境 室内の環境に配慮し、F★★★★を全面的に採用。	Q2 サービス性能 室内空間は作業性を考慮した広さ及び高さを確保し、変化に対応したレイアウトができる空間としている。	Q3 室外環境(敷地内) 施設の作業性等に配慮を行い、可能な限り緑地を設け、施設の環境の向上に努めている。
LR1 エネルギー 太陽光発電設備を設置し、自然エネルギーの利用を行っている。	LR2 資源・マテリアル 人体への影響に配慮し、有害物質を含まない材料の選定を積極的に行う。	LR3 敷地外環境 駐車場及び駐輪場を確保した上、適切に通路を配置し、交通負荷の低減を行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい